16. ^{99m}Tc-HMPAO を用いた起立負荷試験による局所脳血流変化の検討

阿部 晋衛 羽生 春夫 新井 久之
羽田野展由 勝沼 英宇 (東京医大・老)
石井 巌 阿部 公彦 網野 三郎
(同・放)

健常者2例およびOPCA 1例に対し,^{99m}Tc-HMPAO SPECT を用いた起立負荷試験を施行し,自動調節能の障害評価の有用性について検討した.起立負荷前後の画像より局所脳血流変化率を求め,Dysautoregulation Index (D.I.) として ⊿MBP 1 mmHg あたりの局所脳血流変化率を算出した.健常者と比較し患者の D.I. は相対的に高値を認め,本法にても自動調節能の障害が推定可能であり三次元的な画像より局所ごとの分布像が評価し得た.本法は Autoregulation の障害を知る上で簡便かつ有用な検査法であると思われた.

17. ^{99m}Tc-HMPAO エロゾル吸入シンチグラフィについて

森 豊 川上 憲司
(東京慈恵会医大・放)
島田 孝夫 (同・三内)

^{99m}Tc-HMPAO エロゾル吸入シンチグラフィについて正常ボランティア8名,間質性肺炎10名に対し施行し,次の結果を得た.

1) 正常例におけるクリアランスは,肺炎例に比べばらつきが小さく,現在のところ喫煙の影響は認められない.

2) クリアランスの著しい遅延例では,拡散能も低下していた.

3) 間質性肺炎ではクリアランスの遅延がみられた.

4) ^{99m}Tc-DTPA エロゾルクリアランスとは逆の相関がみられた.

18. 虚血性心疾患に対する ^{99m}Tc-MIBI と ^{201}Tl 負荷心筋 SPECT の診断能の比較——左前下行枝一枝障害例についての検討——

高尾 祐治 小野口昌久 大竹 英一
趙 圭一 村田 啓 (虎の門病院・放)
加藤 健一 (同・循環器セ・内科)

虚血性心疾患(狭心症)に対する ^{99m}Tc-MIBI (MIBI) の診断能を ^{201}Tl (Tl) 所見と比較検討することを目的とした.

対象は左前下行枝 (LAD) にのみ有意狭窄がある労作性狭心症10例で,このおのおのに Tl 負荷 SPECT, MIBI 負荷 SPECT, MIBI 安静時 SPECT を行った.心筋をおのおの17領域に分け,各領域で MIBI と Tl の所見を比較した.

LAD 領域 (90 領域) の負荷時異常領域数は,MIBI 49, Tl 59 で Tl の方に多かった.負荷時欠損程度も Tl の方が強い領域が有意に多かった ($p<0.01$).安静時異常領域数は,MIBI 14, Tl 24 で Tl の方に多く,安静時に完全に正常化した領域は MIBI 71% に対して Tl は 59% だった.病変検出の sensitivity は両法とも良好だったが,specificity は MIBI の方が高かった (70% vs 55%).

今回の結果から,狭心症での MIBI 像は,Tl より異常所見が軽度だが,虚血の判定と specificity は Tl より良好であるといえた.

19. 運動負荷時ST上昇を呈した狭心症の核医学的検討

国枝 博之 石黒 聡 山崎 純一
森下 健 (東邦大・一内)

狭心症例で運動負荷により ST 上昇を示す機序として冠攣縮の関与が考えられるが,運動負荷にて誘発される冠攣縮症例は比較的少ない.今回,われわれは過去5年間に運動負荷 Tl-201 心筋 SPECT を施行した約 1,000 例中,エルゴメータ運動負荷時に ST 上昇を呈した狭心症4例について正常例,労作性狭心症例を対象として Bull's eye 法により算出した washout rate (WR) を中心に比較検討した.ST 上昇群での冠動脈造影ではいずれの症例も有意狭窄病変が認められた.正常群における WR は 0.51±0.10 で,%Diameter stenosis (%D.S) が

Presented by Medical*Online